

日本周辺高度回遊性魚類資源調査委託事業

Ⅱ カツオ

漁業資源課 山下 慶太郎

1 目的

カツオの漁獲状況及び生物学的データを収集し、資源評価に必要な基礎的知見を蓄積する。

2 方法

(1) 水揚状況調査

高知県漁業協同組合（以下「県漁協」）6支所（甲浦・室戸・加領郷・宇佐・佐賀・清水）及び久礼漁業協同組合で、曳縄及び沿岸竿釣（19トン以下竿釣船）により水揚げされたカツオの水揚状況を、漁協の電算データ等により集計した。

また、高知県かつお漁業協同組合所属漁船（主に20トン以上の近海竿釣船）のカツオの漁獲状況を、QRY（船間無線連絡漁獲情報）により集計した。

(2) 魚体測定調査

2018年4月から2019年5月に、県漁協5支所（椎名・宇佐・佐賀・下ノ加江・清水）、久礼漁業協同組合、窪津漁業協同組合で水揚げされたカツオの尾叉長（FL）及び体重（BW）を測定し、以下の式により肥満度（CF）を求めた。

$$\cdot CF = (BW(kg)/FL(cm)^3) \times 10^6$$

3 結果

(1) 水揚状況調査

① 曳縄（県漁協6支所（甲浦・室戸・加領郷・宇佐・佐賀・土佐清水））（図1）

2018年の水揚量は54トンで、前年比46%、平年（2008～2017年）比41%と非常に低調であった。1日1隻当たりの水揚量（以下「CPUE」）は23kgで、前年比106%、平年比102%で前年及び平年をやや上回った。

② 沿岸竿釣

・ 県漁協6支所（甲浦・室戸・加領郷・宇佐・佐賀・土佐清水）（図2）

2018年の水揚量は554トンで、前年比60%、平年比72%と低調であった。CPUEは788kgで、前年比108%、平年比122%で前年及び平年を上回った。

・ 久礼漁業協同組合（図3）

2018年の水揚量は703トンで、前年比113%、過去5年平均比184%であった。CPUE1,199kgで、前年比110%、過去5年平均比152%であった。水揚量、CPUEいずれも前年及び平年を上回り好漁であった。

③ 近海竿釣（高知かつお漁業協同組合所属船）（図4）

2018年の水揚量は8,673トンで、前年比114%、平年比89%であった。CPUEは4.6トンで前年比111%、平年比92%であった。

(2) 魚体測定調査

水揚げされたカツオ1,290個体（沿岸竿釣1,112・曳縄117・定置網61）の尾叉長及び体重を測定し、以下の関係式が得られた（図5）。

$$\cdot BW(g) = 6.88 \times 10^{-3} \times FL(cm)^{3.292}$$

算出した肥満度と体重の関係では、年間を通じて測定数が多かった1.5～2.5kgサイズの

月別肥満度は、4月が最も低く、その後8月にかけて平均体重の増加とともに肥満度も上昇した。9～10月は平均体重は低下したものの肥満度は上昇した。11月以降は平均体重は再び増加したが、肥満度は僅かに低下した（図6）。

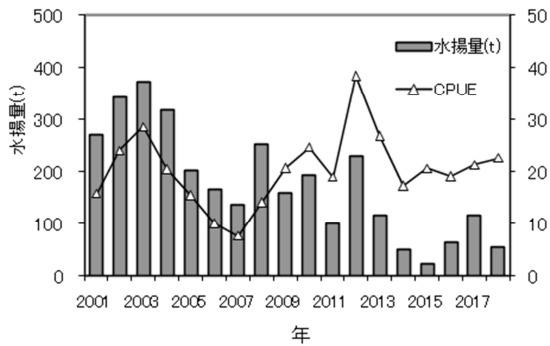


図1 曳縄によるカツオ水揚量・CPUE (県漁協6支所)

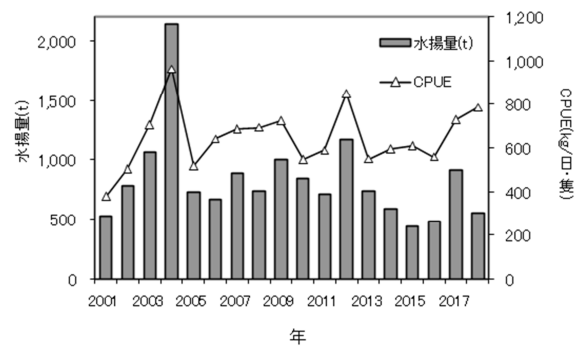


図2 沿岸竿釣によるカツオ水揚量・CPUE (県漁協6支所)

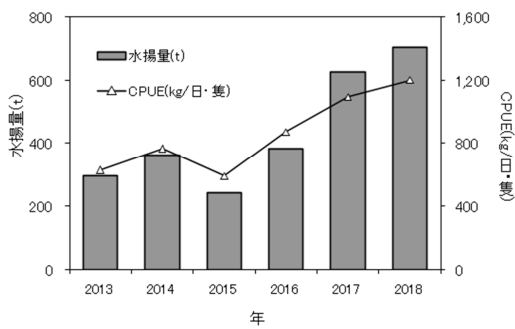


図3 沿岸竿釣によるカツオ水揚量・CPUE (久礼漁協)

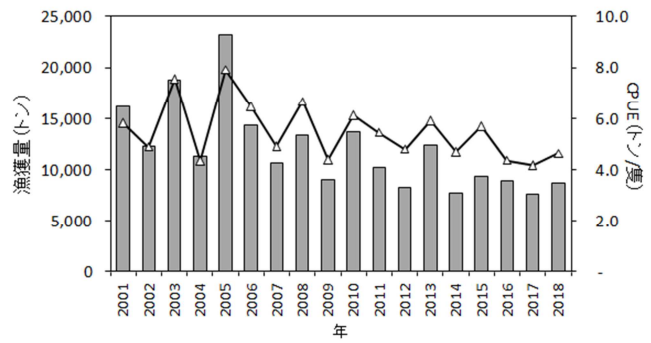


図4 高知かつお漁協所属船によるカツオ水揚量・CPUE

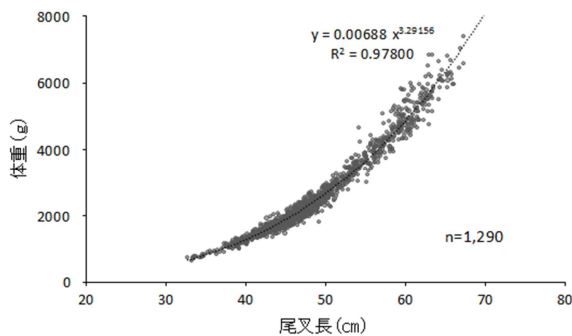


図5 カツオの尾叉長と体重

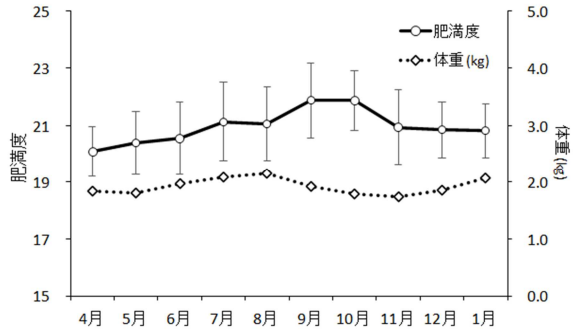


図6 1.5~2.5kg カツオの月別肥満度・平均体重